

JA全農ウィークリー

4
面

オンラインイベント

AG／SUM(アグサム)2021で 全農の取り組みをアピール (広報・調査部)

6面

全農グループブランドヒストリー③
 耕畜連携・資源循環ブランド「3-R」
さん あーる
 (広島県本部)



3-Rブランド認定商品(6面)



東京ビッグサイトで開かれた「第3回お米・穀物産業展」に出展(2面)

2 第3回お米・穀物産業展に出展
「農協ごはん」などの取り組みを紹介
(米穀部)

新規ドローン用拡散性粒剤の実証研修会を実施 (東北営農資材事業所)

3 中国・上海で開催された「SIAL China 2021」に出展 (輸出対策部)

**第49回全国農協カントリー
エレベーター協議会総代会を開催
(米穀生産集荷対策部)**

5 JAズームイン(山形:JA山形おきたま)

7 JAアクセラレーター(第3期)
採択企業紹介①(経営企画部)

8 「農協直売所カレールウ」で JAあつぎとコラボ(神奈川県本部)

全農所属・卓球日本代表の
石川選手が出演「父の日」にまつわる
スペシャルムービーを公開(広報・調査部)

JAタウンショップ紹介

しまね・うまいもんくらぶ

**Web版JA全農ウィークリーは
こちらから**



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

Web
限定

NECライベックス社員食堂で
千葉県産食材をPR(千葉県本部)

News!



「第3回お米・穀物産業展」に出展

新ブランド「農協ごはん」などの取り組みを紹介

米穀部

米穀部は6月9日～11日、東京ビッグサイトで開かれた「第3回お米・穀物産業展」に出展し、パックごはんの新ブランド「農協ごはん」などの取り組みを紹介しました。

お米・穀物産業展は「お米・穀物の食べ方の多様性を発信する3日間」をテーマに開催され、4月1日より全農のグループ会社となったJA全農ラドファ（株）とともに出展しました。

展示会では、ラドファの商品の強みとして「ガス直火炊き」や「シャリ切り」など独自の製法でごはんのお

いしさを最大限に引き出していることなどをPRし、小売り業や外食関係など50社を超える来場者と直接コミュニケーションを図ることができました。

今後、各産地の銘柄米を使用したパックごはんの商品開発を検討するなど、米の需要を見据えた取り組みを続けていきます。



小売り業や外食関係など50社を超える来場者と商談



ボードでJA全農ラドファの製法を紹介

News!



新規ドローン用拡散性粒剤の実証研修会を実施

短時間・効率的な作業を確認

東北営農資材事業所



東北営農資材事業所は、より省力的で簡便になった新規のドローン用拡散性粒剤3種類などについて、山形県で実証研修会を実施しました。

JA山形おきたま協力の下、JA職員、生産者、県本部職員、東北営農資材事業所職員が参加し、山形県で新規のドローン用拡散性粒剤（水稻用除草剤）の実証研修会を実施しました。

今回使用した拡散性粒剤は、処理量が10aあたり250～400gと、従来の1kgよりも大幅に少なく

なります。また拡散性にも優れ、田植機での処理や手作業による散布の必要がなくなり、ドローンでの散布のみで済みます。

実際の散布では、30aの圃場への実散布時間がわずか1分以内だった剤もあり、JA職員からも「非常に短時間で作業が終わり、省力につながる事が分かった」と評価する声がありました。



拡散性粒剤の特徴についてメーカー担当から説明を受ける県本部・JA職員



除草剤を散布しているドローン



中国・上海で開催された「SIAL China 2021」に出展

全農(ZEN-NOH)ブランドの認知度向上を図る

輸出対策部

来場者や出展者・会場関係者からの注目を集めたブース



「SIAL China」は例年、世界34カ国から約4500社が出展し、12万人以上が来場する世界最大級の食品見本市です。今年は新型コロナウイルス感染症

輸出対策部と全農(上海)貿易有限公司、JA全農インターナショナル(株)は、現地輸入者、卸業者と連携し、5月18〜20日に、中国・上海で開催された「SIAL China 2021」にブースを出展しました。

の影響で来場者が中国国内に限られていたものの、多くのバイヤーが来場しました。ブースでは日本産米や加工品(飲料・包装食品)の紹介、産地の映像紹介および試飲・試食を通して、

全農(ZEN-NOH)ブランドの認知度向上を図り、日系企業を含む65件超のバイヤーと商談しました。浴衣を着用して日本産をアピールしたブースは来場者や出展者・会場関係者からの注目を集めました。

全農は中国語圏にもPRするため、中国語版のHPを開設しました。



簡体字



繁体字



第49回全国農協カントリーエレベーター協議会総代会を開催

今年度施設運営の模範となる上級オペレーターの認定試験を実施

米穀生産集荷対策部

米穀生産集荷対策部が事務局を務める「全国農協カントリーエレベーター協議会」(以下、CE協議会、会長…長野県JA上伊那 御子柴茂樹代表理事組合長)は6月2日、第49回総代会を開催しました。

総代会では、令和2年度事業報告および収支決算、令和3年度事業計画および収支予算について協議し、議案は全て承認されました。

令和2年度事業報告では、5年に一度実施する「優良農協カントリーエレベーター表彰」

や2年に一度実施する「上級オペレーター認定式」の実施を報告しました。また、令和3年度事業計画において、会員(全国…239JA、733施設)を対象とした、3年に一度実施する「運営実態調査」(8月)や

上級オペレーター認定者の県別一覧(令和3年6月現在)(単位:人)

県名	認定者数	県名	認定者数
宮城	11	愛知	2
秋田	8	三重	2
福島	5	福井	1
茨城	2	滋賀	2
栃木	1	香川	10
長野	5	福岡	18
新潟	12	佐賀	1
岐阜	8	熊本	5
合計			93

「上級オペレーター認定試験」(1月)などを計画していることを報告しました。引き続き関係機関と連携して研修会などを実施し、今般特に求められている自主的衛生管理の取り組みを徹底していきます。

オンラインイベント

「AG/SUM 2021」で
全農の取り組みをアピール

シンポジウムやワークショップに登壇



の実現への最新情報を発信するイベントです。

シンポジウムでの登壇

山崎周二理事長は、齋藤健元農水大臣らとともに、スマート農業をテーマにしたシンポジウムに登壇しました。「スマート農業は持続可能な農業のために全農が行っているさまざまな打ち手の一つではあるが、テクノロジだけで農業は成り立たない。これまで培ってきた基礎技術と組み合わせ、それを使いこなす人を育てて初めて効果を発揮する」と強調。各地の実例やスタートアップ支援などの取り組みについてアピールしました。

都市と地方の連携に関するシンポジウムに登壇した花木正夫労働力支援室専任室長は、大分県で構築した労働力支援の仕組みと、国内の基幹的農業従事者の急速な減少を踏まえ「農業

に関わるハードルを下げ、多様な人が農業の現場で活躍できる仕組みを全国に展開していくことが急務」と話しました。

ワークショップでのZIGIS・ザルビオの提案

平野幸教スマート農業推進課長は「スマート農業を実現する全農の提案」と題したワークショップに登壇。「全農は農業者目線のスマート農業の実現に取り組んできた。データを活用した経営の実現に向けたツールとして開発したZIGISと今年から連携開始したAIベースのザルビオを通じて持続可能な経営に貢献する」と話し、実際に利用する農家の声とともに全農の取り組みを発表しました。



6月17日に開催されたシンポジウム

全農は6月1日～30日に開催されている農業とテクノロジをテーマとしたオンラインイベント「Agri tech & Food tech Summit (AG/SUM・アグサム) 2021」(日本経済新聞社主催)に農林中央金庫とともに協賛し、シンポジウム登壇やワークショップを通じて、全農の取り組みを発信しました。

〔広報・調査部〕

今回で4回目の開催になるアグサムは、コロナ禍の影響でオンラインの開催となりました。「つながるアグリ、広がるフード、支えるネット」をキーワードに、企業や研究機関の有識者やスタートアップ経営者などが登壇するシンポジウムやワークショップを通じて、持続可能な食と農



シンポジウムに登壇した山崎理事長



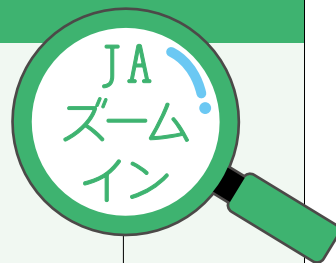
このイベントの動画は
7月30日まで
視聴できます。
詳細はこちらから。





デラウェア目ぞろえ会

JA山形おきたまは1994(平成6)年4月に山形県置賜地域内の9つの総合JAと1専門農協が合併して誕生した3市5町からなる広域JAです。主な農産物は米・肉用牛のほか果樹生産が盛んで、中でもブドウの「デラウェア」は、日本一の産地となっています。



「おきたまブランド」確立

生産者手取りの最大化図る

「園芸事業改革プロジェクト」の発足

課題となっていた高齢化などによる生産部会の会員数の減少とそれに伴う出荷量の減少、品質格差の拡大、流通コストの増大といった問題点を克服するため、2015(平成27)年9月に「園芸事業改革プロジェクト」を発足。「おきたま統一共選」の実施、出荷施設の再編による集出荷の効率化とコスト削減、JAオリジナル商品の開発という3本柱で取り組みました。

高位平準化の鍵「おきたま統一共選」

「量は力 品質は信頼」を合言葉に2017(平成29)



広域集出荷施設

年に他品目に先駆けてデラウェア、他の園芸品目は2018(平成30)年から開始し、統一共選に合わせ、販売業務を園芸課に一元化して分荷体制を確立。統一ブランドで販売するようにしました。有利販売に向けて出荷期間4か月の間、30社を超える市場と日々価格交渉を行い、JA合併以来最高の販売価格を更新。以後もJA合併以降の最高単価を更新し続けています。

JA山形おきたま(山形県)



出荷施設の再編による集出荷の効率化

統一共選の実施と並行して、老朽化して採算性が悪くなっていた園芸集出荷施設の廃止を含めた施設再編にも取り組みました。具体的には、集荷場を各地区1カ所として14施設を10施設、選果場を3カ所に集約しました。また、管内一円からの集荷が多いデラウェアを荷受対応するため、廃止となった集荷場3カ所を「荷受中継基地」として活用しています。

JAオリジナルブランド商品を開発「おきたま」の知名度向上図る

日本一の生産量を誇るデラ

ラウェアを中心に「おきたま」のブランド化を図るため、食品加工メーカーとタイアップして、デラウェアの各種加工商品の販売に着手し、「山形グミおきたまデラウェア」や「おきたまデラまめ」、新食感の焼き菓子「デラ雪」などの商品を次々に開発し、第1弾商品のグミはこれまで130万袋を超え大ヒットとなっています。JAではこれからも組合員と協力しながら「おきたまブランド」を確固たるものにする取り組みを続けていきます。



おきたまデラまめ

概要

令和2年3月31日現在

正組合員数	19,251人
准組合員数	10,706人
職員数	624人
販売品取扱高	200億6千万円
購買品取扱高	56億円
貯金残高	1,376億3千万円
長期共済保有高	6,299億円
主な農畜産物	米・デラウェア・米沢牛

全農グループブランドヒストリー

③

耕畜連携・資源循環ブランド「3-R」 資源循環型農業の拡大を目指す

「3-R(さんあーる)」は、地域の畜産堆肥を野菜や米、飼料用作物の生産に生かす、耕畜連携から生まれた農畜産物の認証ブランドです。「地域の魅力を未来に伝えるために」をテーマに、環境保全につながる資源循環型農業の拡大を目指しています。【広島県本部】

耕畜連携の取り組みを「見える化」し

「3-R」ブランド立ち上げ

技術面、コスト面から一定のハードルがある資源循環型農業。耕畜連携の意義、生産者の思いや苦労が消費者に届いていない現状がありました。

そこで、この取り組みを「見える化」し、その価値を消費者に伝えるため、「3-R」ブランドを立ち上げました。生産振興を後押しするとともに、資源循環型農業を推進していきます。

3つのRは「リサイクリング」「リソース」「リピート」を表します。畜産堆肥や飼料用作物を資源と

して再利用する活動を繰り返すことで、持続可能な農業、環境保全につなげ、美しい里山や田園といった地域の魅力を未来に伝えたいという思いを込めています。

商品ごとに設定した耕畜連携などの基準を満たすものを、3-R認定商品として販売しています。現在、「循環野菜」「お米(マイ)ポーク」を含む12品目の商品をそろえ、県本部直営産直市「とれたて元氣市」をはじめ、JA産直市や量販店など9店舗で販売。「JAタウン」でも取り扱っています。

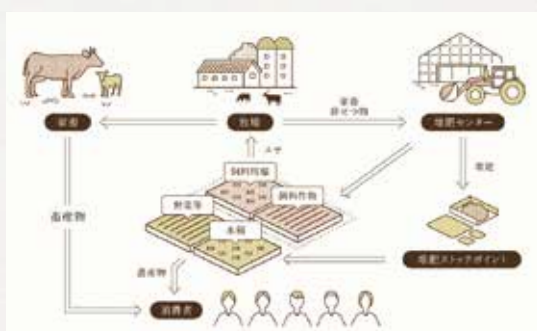
資源循環型農業の拡大

さらなるブランド強化を目指す

畜産堆肥の活用拡大に向けて、生産者を対象に研修会を開くなど、技術の普及に取り組んでいます。また、JA西日本営農技術センターでは、畜産堆肥の施用試

験を行い、品目の拡大に向けた研究を進めています。

「3-R」は、SDGsの実現や、国が掲げる「みどりの食料システム戦略」における脱炭素化・環境負荷軽減にもつながる取り組みです。今後は、資源循環型農業の拡大に加え、化学肥料・農薬の節減や有機農業の拡大も視野に、さらなるブランドの強化を目指していきます。



※1 家畜の飼料に飼料米や稲を用い、耕作放棄地を抑制
※2 畜産堆肥の利用により、持続可能な農地づくりへ



<https://jazhr.jp/3-R/>

プレゼント 「3-R循環野菜・お米(マイ)ポーク加工品詰め合わせBOX」を5名様にプレゼントします。



※野菜の種類はイメージです。

応募方法

件名に「ブランドヒストリープレゼント」、本文に郵便番号、住所、氏名、年齢、所属JA、電話番号、JA全農ウィークリーの感想をご記入の上、メールにてご応募ください。

応募先

zz_zk_zennohweekly@zennoh.or.jp

締め切り

令和3年7月9日(金)23時59分

※応募者多数の場合は抽選で当選者を決定いたします。また、当選の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

※いただいた個人情報は、プレゼントの発送にのみ使用いたします。

JAアクセラレーター(第3期) 採択企業紹介①



AgVenture Lab(アグベンチャーラボ)で5月24日、JAアクセラレーター(第3期)の最終審査コンテストが開催され、9社が優秀賞として採択されました。今号では2社を紹介します。【経営企画部】

株式会社Ciamo

プラン名 廃棄物で作る「光合成細菌」で
持続可能な農業と水産養殖の実現

同社は代表の古賀碧さんが2018年に立ち上げた崇城大学(熊本県)発のスタートアップ企業です。熊本県の特産品である米焼酎「球磨焼酎」の焼酎粕で光合成細菌を安価に培養し、使用するためのキット「くまレッド」の研究・開発・販売を行っています。

焼酎粕の有効活用により焼酎生産者にとっては処理費用の低減、また光合成細菌を農業に活用することで収量増加・品質向上につながり、地域活性化に貢献可能な取り組みであることをプレゼンしました。「くまレッド」は従来製品の1/10の価格を実現し、光合成細菌を手軽に安価に農業現場で活用できます。

今後約5カ月間にわたるプログラム期間において、さまざまな品目・地域で「くまレッド」による実証実験を行い、普及につなげたいこと、また環境破壊で深刻化する水産養殖(エビ)の現場においては、「くまレッド」とは異なる「海」の光合成細菌を培養し使用した実証実験を行う予定です。



熊本県の特産品、
米焼酎「球磨焼酎」



光合成
細菌培養キット
「くまレッド」

東京ロボティクス株式会社

プラン名 自律協働ロボットで選果場の
人手不足を解消

同社は2015年創業の早稲田大学発のスタートアップ企業で、人間の生活空間で自律的に動く、人間と共存可能なロボットの実現を目指しています。創業以来、研究機関向けの最先端ロボットの研究開発に注力してきましたが、農業現場の人手不足を解消すべく、本プログラムで初めて社会実装に向けた取り組みを開始します。同社の技術力はヤマハ発動機から出資を受けるなど大手企業からも高い評価を受けており、同社の持つ深層学習技術(AIの一種)と力制御技術が、食の生産流通の現場における人手不足、特に選果場の人手不足の解決に役立つと期待され、今回優秀賞を受賞しました。

今後約5カ月間にわたるプログラム期間では、同社の持つ技術と現場のニーズを合致させるため、選果場の現場に関するヒアリングや実際の現場での実証実験と改善を重ね、さまざまな選果場の現場へ移設が可能な自律協働ロボットを開発し、プログラム期間終了後の展開を見据えた検討を行っていく予定です。



画像認識による
果物のピッキング



手先にバネが
あるかのような動作で
果物を潰さず扱う

「農協直売所カレールウ」でJAあつぎとコラボ あつぎの農業を食べて応援!キャンペーン

神奈川県本部は7月1日~8月15日に行われるJAあつぎ「あつぎの農業を食べて応援!キャンペーン」にオリジナル商品を提供し、取り組みに参画します。【神奈川県本部】

JAあつぎでは旬の農産物や地場農畜産物、地域農業の魅力を県内外に広く発信していく取り組みとして、令和元年度より継続して本キャンペーンに取り組んでいます。今回は夏野菜&カレーにスポットを当て、エピソードの投稿を募ります。

神奈川県本部は「農協直売所カレールウ」「農協直売所炒め玉ねぎ」を賞品として進呈し、また同JA公式YouTube「ゆめみちゃんねる」にて調理のポイントを紹介します。



動画内では旬を迎える夏野菜やカレーレシピも紹介され、キャンペーンを通した参加者同士の食と農に関するコミュニケーション活性化を目指します。

この機会にぜひ直売所の地場農畜産物をご利用ください。県内の方はもちろん、県外からのご応募もお待ちしています。

応募方法

①ホームページの専用フォーム、②Instagramにてハッシュタグ「#あつぎ夏野菜カレー作り2021」をつけて投稿、③JAあつぎ広報誌掲載の応募券をハガキに貼って応募にて受け付けています。

詳細はこちら



全農所属・卓球日本代表の
石川佳純選手が出演

「父の日」にまつわるスペシャルムービーを公開



石川佳純選手 JAタウン公式
アンバサダー特設サイト



全農は6月18日、全農が運営する産地直送通販サイト「JAタウン」の公式アンバサダーに就任した全農所属・卓球日本代表の石川佳純選手が出演する「父の日」にまつわるスペシャルムービーを公開しました。【広報・調査部】

石川選手がご自身のお父さんとの思い出や好きな食べ物について語りながら、全国から集められた59種類のJAタウンの商品から「お父さんが欲しいもの」を選びます。

今後、このムービーを活用して「大切な人への贈り物」をテーマにしたテレビCMも順次公開します(時期未定)。楽しそうに思い出を語ったり、つい自分が欲しくなったり…。石川選手の自然な表情がたくさん見られる素敵なCMになりました。公開をお楽しみに。



動画は
こちら

JA全農のインターネットショッピングモール JAタウン ショップ紹介

しまね・うまいもんくらぶ

島根県産デラウェアは、ハウス栽培で日本有数の生産量を誇ります。小粒の実、糖度が18度にも達し、強い甘みと程良い酸味がマッチしたすっきりとした味わいです。種なしで、皮をつまむと果肉がすっと出てくるため、小さなお子さまでも食べやすく、暑い日のデザートにも最適です。

生産農家が粒の数ほど愛情をかけて育てた島根県産デラウェアを、ぜひお楽しみください。



島根県産 デラウェア 約2kg (秀).....5100円(税込)

▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは ☑ shop@ja-town1.com

ご注文は
こちらから

